



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1724号

事務所 静岡県三島市大社町17-4
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL(055)972-2122
会長 亥角 裕巳 幹事 井上 幸子



広重版画より 三島 朝霧

第1786回例会

2009.3.26晴

司会

佐々木雅浩君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 前田房江君

会長挨拶

会長 亥角裕巳君

皆様こんにちは。ゲスト・ビジターの皆様ようこそいらっしゃいました。

3月22日の苗栗RC創立38周年記念式典には多くの参加を頂きありがとうございました。総勢13名の出席で姉妹クラブとしての役目が果たせたものと思います。翌23日には成田空港で大事故が起こり帰国のスケジュールが大幅に狂い大変な思いをしたことと思います。お疲れさまでした。

交換研修中学生8名は、記念式典出席後4グループに分かれてホームステイをしています。月曜日から各中学校を訪問していますが、いずれの学校でも大歓迎を受け、体験授業の様子が早速現地の新聞に掲載されました。昨日より、28日まで姉妹クラブ委員長ほか2名が付き添いをおこなっています。今回、記念式典での姉妹クラブ会長挨拶を北京語でチャレンジしてみました。丸善工業(株)諏訪部さんの会社の方に翻訳をお願いし、テープで発音の練習を何回もしていききましたが、懇親会でガバナーより「よく解らなかったけれど、熱意がすばらしかった」と誉められたのかどうかよくわからないお言葉を頂戴いたしました。言語明瞭なれども意味不明、といったところだったのでしょいか。

今後の苗栗RCとの姉妹クラブの関係において、言葉の問題が大きな課題であることを改めて認識した次第です。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 久保田江利子さん
(亥角君・矢岸君のゲスト) -以上1名-

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	38/50	76.00%	43/50	86.00%
今回	32/48	66.67%	会員総数	53名

欠席者 荒川君、石井(彰)君、岩崎君、勝間田君、栗田君、鈴木(郁)君、鈴木(貞)君、鈴木(雅)君、諏訪部(照)君、千葉君、野口君、原君、望月君、森崎君、柳田君、矢野君

幹事報告

幹事 井上幸子君

- ① 苗栗RC38周年記念式典参加ご苦労様でした
参加者 亥角裕巳 岩崎守幸 井上幸子 遠藤正幸
佐々木雅浩ご夫妻 佐野宏三 田熊幸代
西本和夫ご夫妻 矢野敏夫
- ② 訃報のお知らせ
鈴木貞雄会員より、本日メールが届きました。奥様が急逝なされたそうです。ご葬儀はすでに終わっておられる旨と、静かにさせて戴きたいと記されております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。
(お願い)クラブ内規により慶弔の意を表する事になっております。慶事・弔事がありました場合、幹事宛に必ず届出をお願い致します。
- ③ 本日より休会届を提出されていた石井良衛会員が再出席されました。

2008～2009年度
国際ロータリー会長
李 東建(D.K.Lee)

夢をかたちに

『フィボナッチ数列』と『黄金比』をめぐって

野田和秀君

- ◆ 亥角君・井上君・田熊君・矢野君・佐野君・西本君・佐々木君・遠藤(正)君、苗栗RC創立38周年式典無事行つて参りました。成田空港の事故で、帰国時は大変でしたが、式典では楽しく交流が出来ました。
- ◆ 遠藤(正)君、娘が卒業し4月から杏林大学病院に勤めます。3人の子供が巣立ちなんとか親の責任が果たせました。
- ◆ 佐々木君、初めての苗栗RC訪問でした。同行の皆様が大変お世話になりまして誠にありがとうございます。
- ◆ 野田君、去る3月21日、初孫のお宮参りと私の59歳の誕生日を家族で祝ってくれました。本日は景気どん底での久方振りの卓話です。よろしく願います。

今から十数年前、ある取引先を訪ねた時、社長室に「不易流行」の額がかかっています、その時はその意味がよくわかりませんでした。後でそれは芭蕉の俳句観を表す言葉であり、不易の「易」は蜥蜴の「蜴」からきたものらしく、「不易」が「変わらない」「変えてはいけない」という意味だと知りました。ケーキに喩えると、不易は土台のカステラの部分で、流行はデコレーションの部分と考えれば解りやすいでしょうか。それ以来いつも頭の片隅にある字句の一つになりました。変化への対応に追られながらもバランスを保つことも求められる中で、去年ある著名な証券アナリストのセミナーのCDを聴く機会があり、その話の中で大転換の時代における普遍の法則の一つとしての「黄金比」と「フィボナッチ数列」についての部分に強い印象を受けた次第です。「フィボナッチ数列」とは0、1、1、2、3、5、8というように1項目と2項目を足して3項目にしてゆく数列です。233以降で後の項の数字を前の項の数字で割ると1.618…となり、これが「黄金比」と合致するのです。因みに前の項を後の項で割ると0.618になります。不思議です。古来、芸術家や建築家が製作した絵画や建築物の構図が「黄金比」に近いといわれています。彼らがそれを元にデザインしたか、美的なバランスを極限まで追求した結果が「黄金比」に近いものとなったかは専門家にまかせるとしても何か謎めいています。様々な縦横比の長方形を見比べてみても、やはり黄金長方形がもっとも審美的で心地よいではないですか？ところで、この1:1.618の黄金比を百分率で表すと38.2%と61.8%です。これはいつも悩まされている法人税の税率ではないですか。私は、最近税金と考えるとどうしても取られるという意識が働く上に、昨今の役人のワタリ等のニュースを聞いて精神衛生上よくないので、「お布施」と考えるようにしています。仏教でいう「六波羅密」の一つである「布施」です。何はともあれ、我々は相反すること、例えば「自利」と「利他」、「自力」と「他力」、今はやりの「正規」か「非正規」またグローバル恐慌の中での「自由」と「規制」、ロータリアンとして「奉仕」の度合いをどう考え、バランスをとっていくか、もし「黄金比」に基づいてうまくいくとすれば、それこそ「黄金の均衡点」といってよいのでしょうか。そういえば、昔から4分6でなんとかと言っていますね。「黄金分割」に当たらずとも遠からずですかね。

(週報担当:日高 克)

